

島根県の地震

令和2（2020）年10月

・震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は暫定値です。後日、再調査のうえ修正されることがあります。

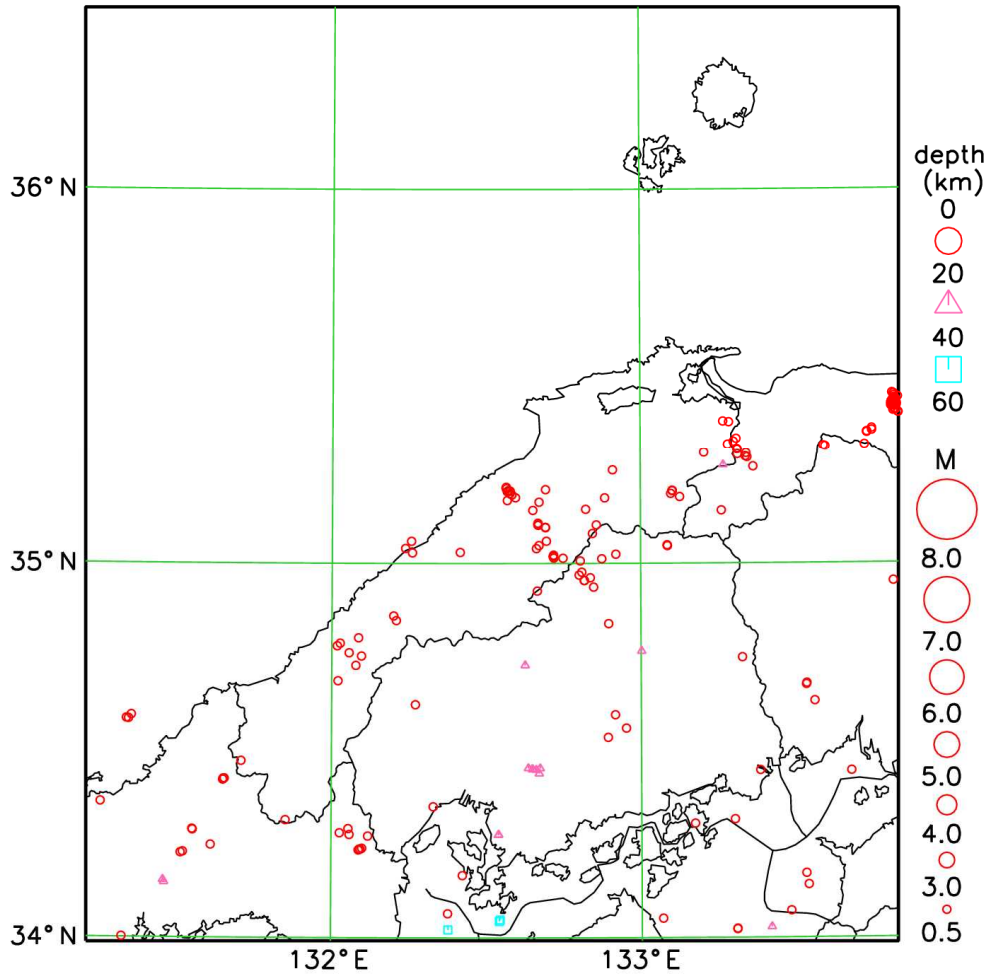
・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを基に作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを利用しています。

松江地方気象台

島根県およびその周辺地域の地震活動 2020年10月1日～31日

2020 10 01 00:00 -- 2020 10 31 24:00

N=193

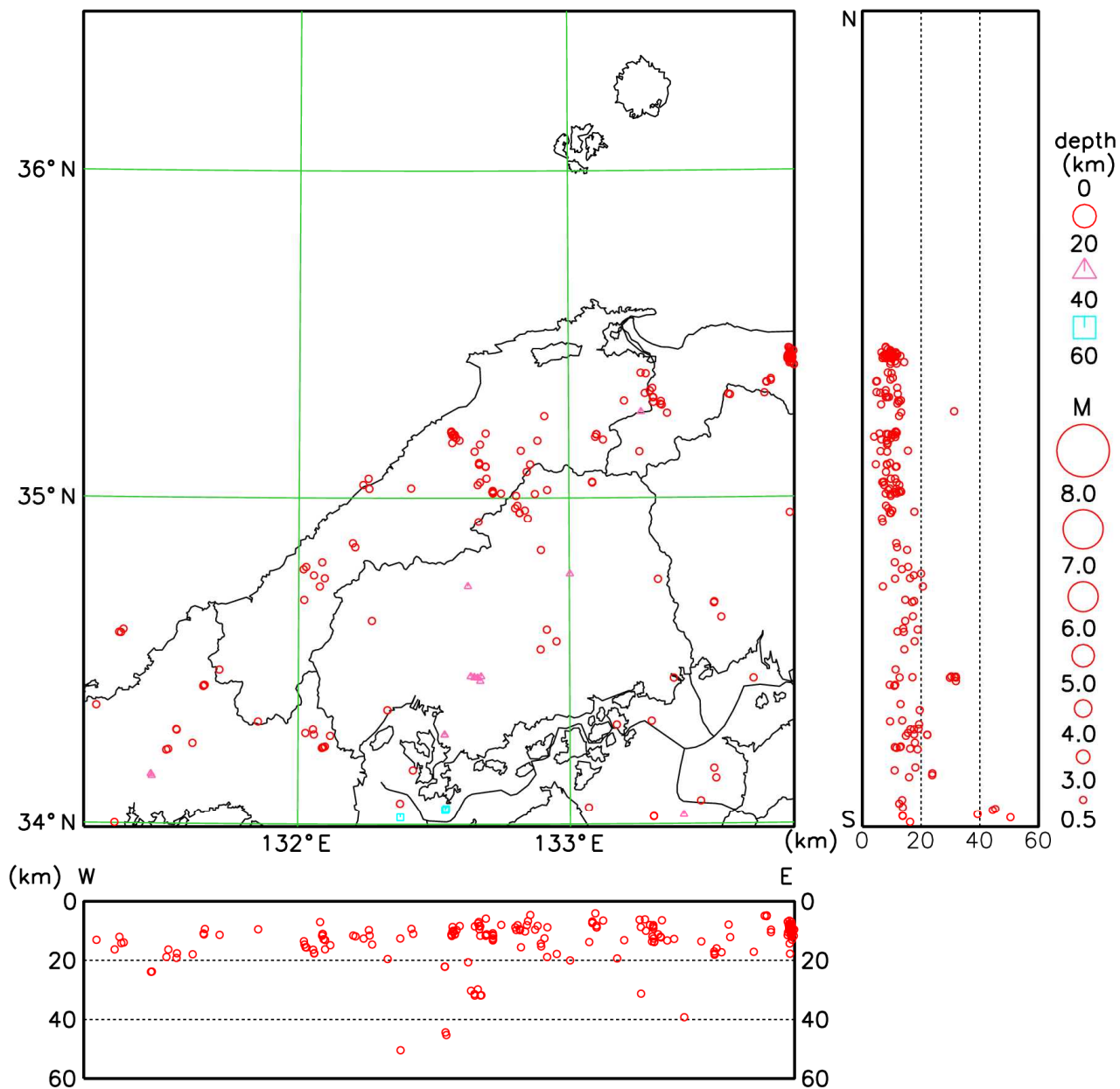


[概況]

今期間、M0.5以上を観測した地震は193回（9月は202回）でした。
また、島根県内で震度1以上を観測した地震は、ありませんでした。

[断面図]

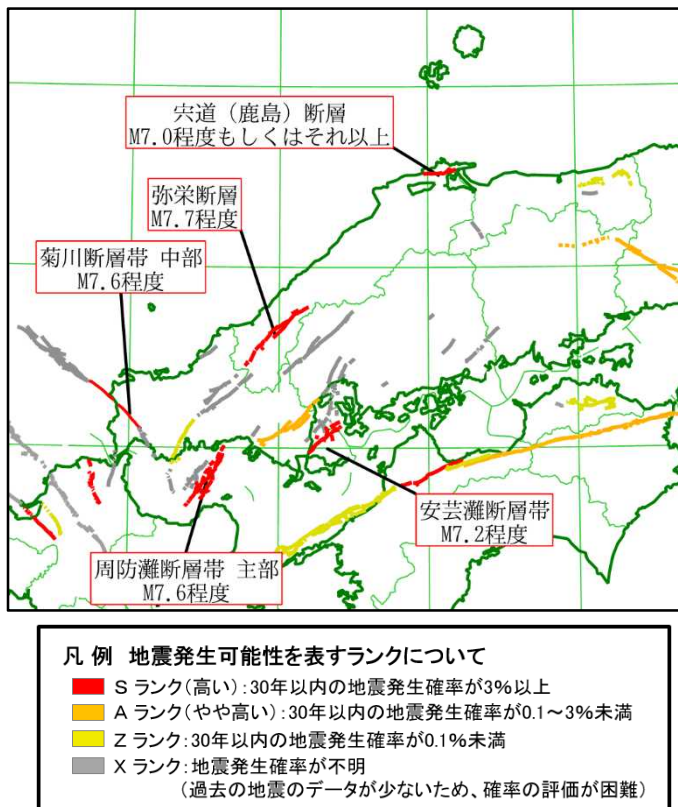
2020 10 01 00:00 -- 2020 10 31 24:00



中国地方の活断層

中国地方は、広島県西部から山口県東部の地域を除き、国内の他地方で明瞭に認められるような活断層は多くありません。下図の赤・橙・黄・灰色の線は、地震調査研究推進本部により評価がされている主な活断層を示しており、過去地震の記録や現地調査などを基に、今後発生する地震の規模や発生確率が公表されています。

図 中国地方とその周辺の活断層



地震発生の可能性を分かり易く示すため、発生確率の値に従って4つのランクに分けられています。

赤色で表示された活断層は、今後、地震の発生する確率が高い(30年以内に3%以上)と評価された「Sランク」の活断層であることを示しています。橙色のものは、やや高い(30年以内に0.1~3%未満)「Aランク」であることを、黄色のものは、30年以内に0.1%未満の「Zランク」であることを、灰色のものは、発生確率が不明の「Xランク」であることを示しています。

たとえば、弥栄断層は、全体が1つの区間として活動する場合、マグニチュード7.7程度の地震が発生する可能性があり、今後30年以内の地震発生確率は、ほぼ0%~6%とされており、Sランクに分類されています。

確率の数値は小さく見えますが、1995年の兵庫県南部地震の発生直前の30年確率は0.02%~8%であったことを踏まえると「小さい値」とは言えません。

活断層をさらに理解するためのパンフレットはこちらです。

気象庁 HP パンフレット「活断層の地震に備える ー陸域の浅い地震ー」

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/katsudansou/index.html>

詳細はこちらをご確認ください。

地震本部 HP 中国地域の活断層の地域評価

https://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/regional_evaluation/chugoku-detail/